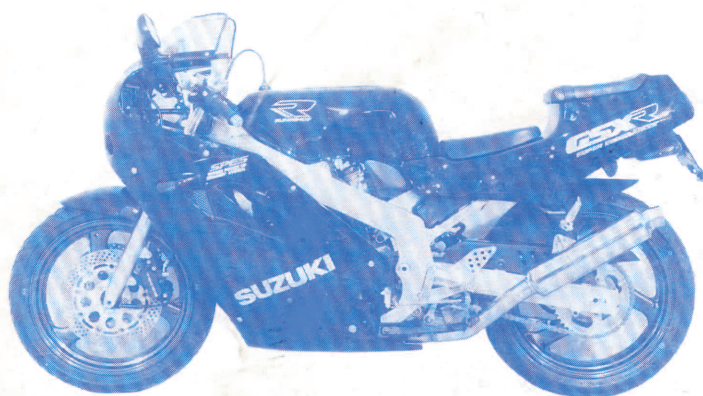


SUZUKI
GSX-R400
サービスガイド



GK73A

GSX-R400J
GSX-R400FJ
GSX-R400RK
GSX-R400RFK

CLICK HERE TO **DOWNLOAD** THE COMPLETE MANUAL

- Thank you very much for reading the preview of the manual.
- You can download the complete manual from: www.heydownloads.com by clicking the link below



- Please note: If there is no response to CLICKING the link, please download this PDF first and then click on it.

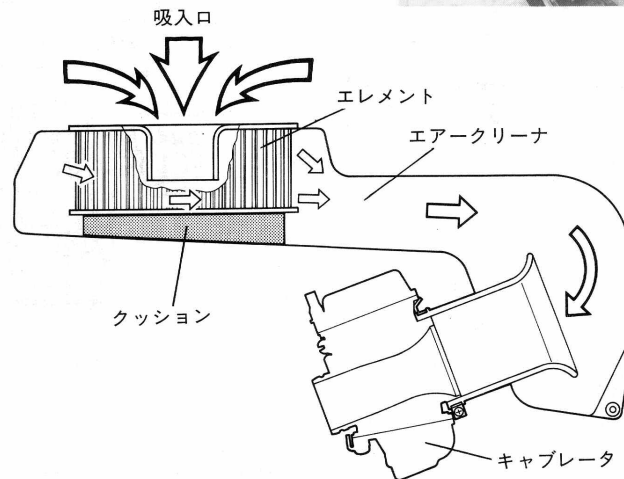
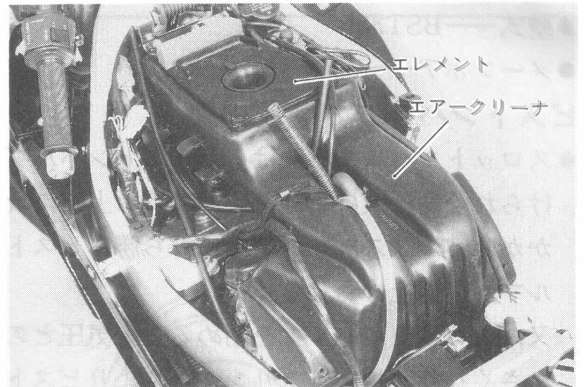
CLICK HERE TO **DOWNLOAD** THE COMPLETE MANUAL

吸入，排気関係

吸入，排気関係

エアークリーナ

- エアークリーナエレメント（不織布式）を使用している。
- クリーナケース容量を大きくし吸入音の低減を図っている。



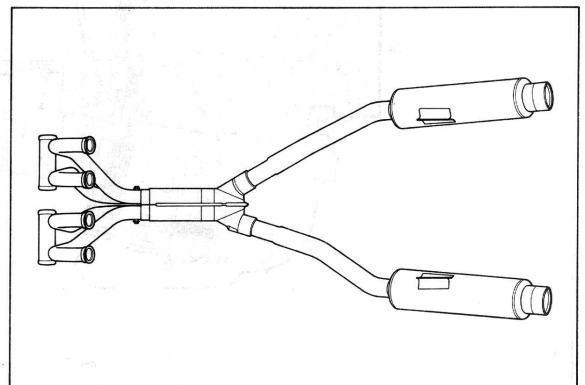
新気導入システム

- カウリングボデーに設けたインテークからエアダクトを通して新気をクリーナの吸い込み口付近に導入することにより充填効果を向上させています。



エキゾーストパイプ・マフラ

- 低速から高速までのパワーバンドを広めた 4 into 2 方式
- オーバーラップ時に吸入効果を妨げないようエキゾーストパイプ途中に設けたそれぞれの管の影響により排気脈動の反射圧力波を打ち消し，インレットパイプからの吸入をスムーズに行なう装置です。



解説

バッテリー

バッテリー

●メンテナンスフリーバッテリー

- ・液面点検、補水の必要がない
- ・自己放電が少ない
- ・排出管等の突起物がない
- ・安全設計

過充電による過大なガス発生に対処するため、バッテリー内に安全弁を備えています。

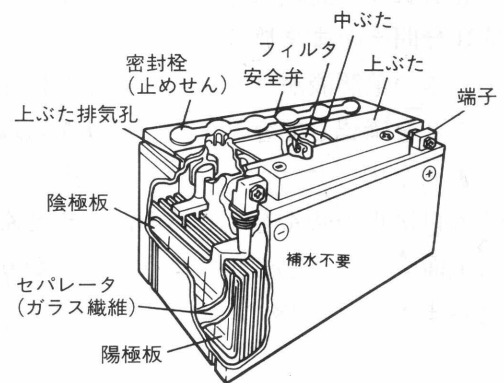
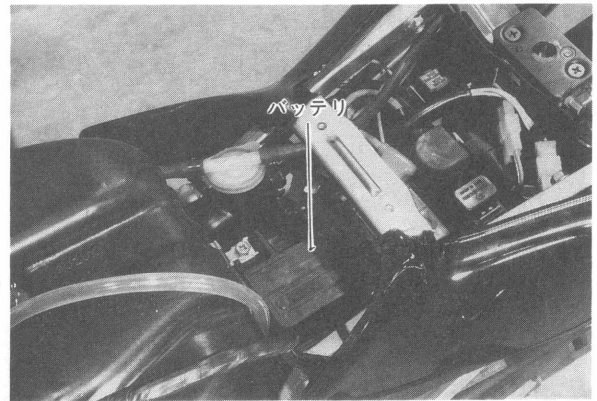
●完全即用式

(製造後2年間以上経過したもの、また高温条件に保存されていたものは上ふたに表示されている補充電要領にもとずき初期充電を行なってください。)

●型式——YTH9-12B

●容量——8 AH

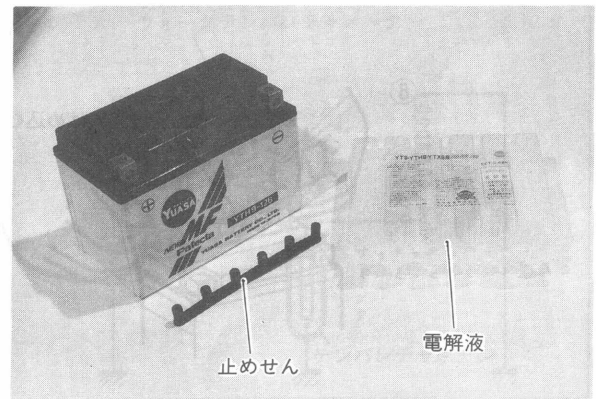
●出荷時取付銘柄——ユアサ



●バッテリーの取り扱いの注意

- ・バッテリーは完全即用式ですので使用直前まで注入口を密閉しているアルミシールをはがさないでください。
- ・専用電解液以外は絶対に使用しないでください。
- ・電解液注入の際には必ず規定容量（電解液容器の分量だけ）の電解液を使用してください。

注 一度電解液を充填したら絶対に止めせんをはがさないでください。



充電電圧，スパークプラグ，リヤブレーキランプ

充電電圧の点検

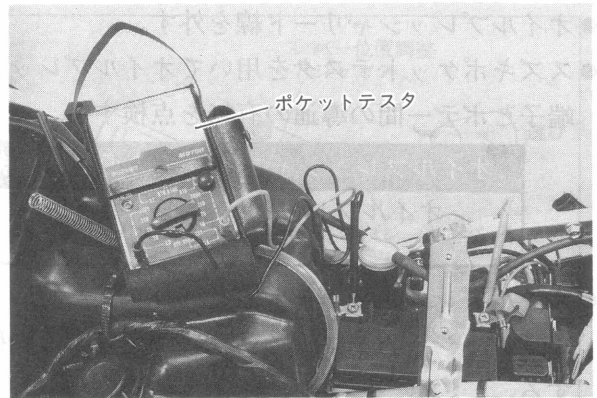
- バッテリーの⊕，⊖端子間に電圧計またはポケットテストを接続する。

特 工 ポケットテスト：09900-25002
使用レンジ——DC・V

- ヘッドランプ点灯時及び消灯時の充電電圧を所定のエンジン回転数で測定する。

注 テスタの⊕，⊖を間違えないでください。

充電電圧		
エンジン回転5000rpm	13~16	V



スパークプラグの点検

- スパークプラグを外す。
- 電極・絶縁碍子などの汚れ，破損，変形などを目視で点検する。

汚れている場合

プラグクリーナやワイヤブラシで清掃する。

汚れがはなはだしい場合

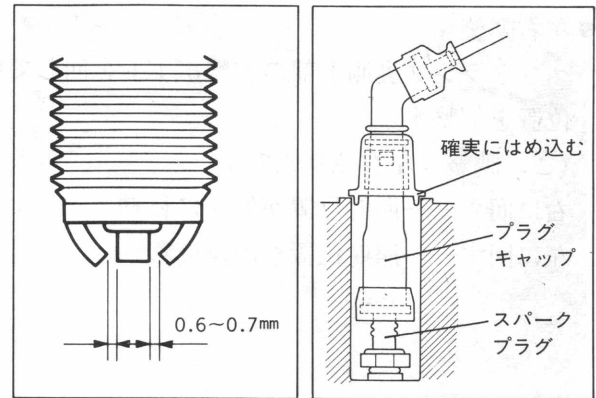
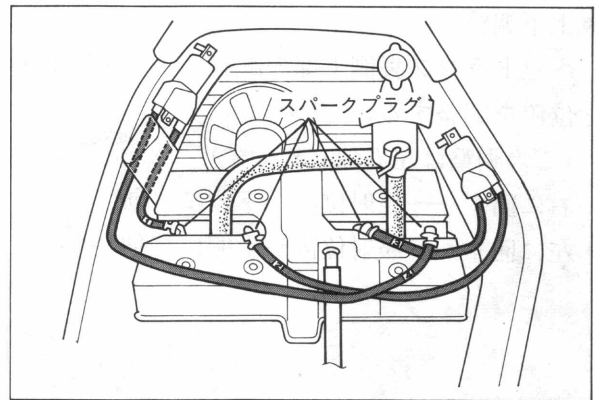
完全な修復ができないときは交換する。

- 電極と接地電極のすき間を特殊工具（ゲージ）を用いて測定し，正しいすき間に調整する。

特 工 プラグギャップゲージ：09900-20804

プラグギャップ	
0.6~0.7	mm

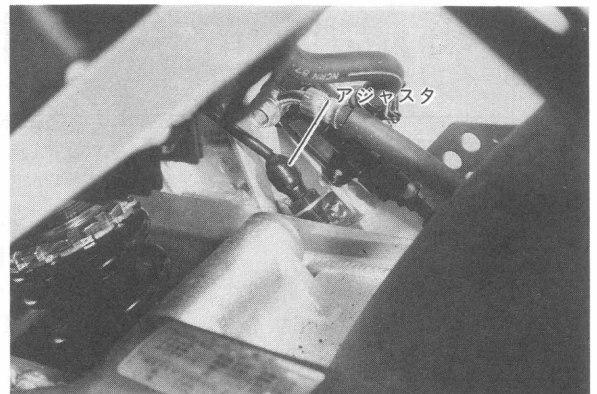
スパークプラグ適応表		
	NGK	日本電装
標準	CR9EK	U27ETR
焼け型	CR8EK	U24ETR



リヤブレーキランプの点灯時期の調整

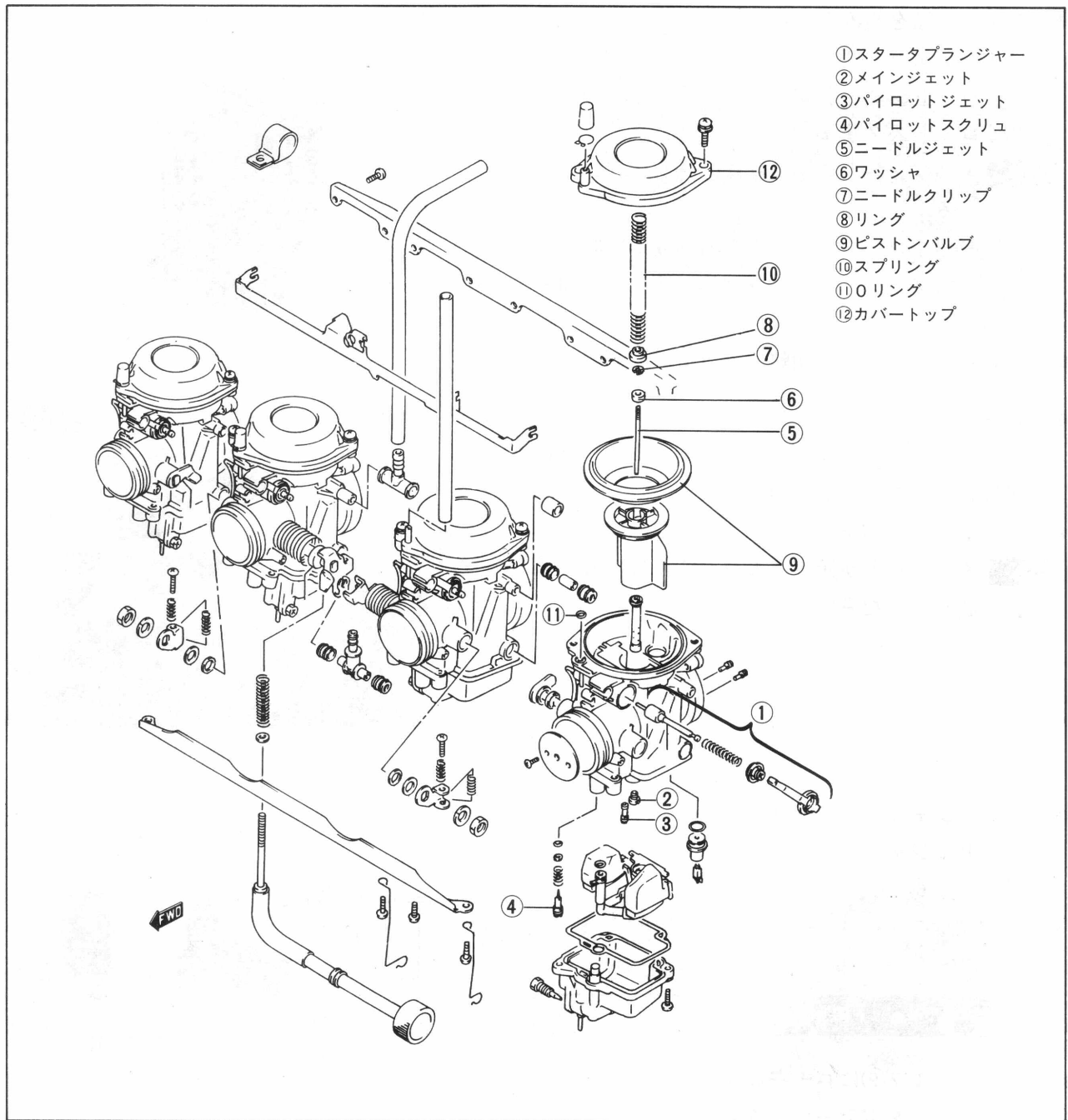
- ブレーキランプスイッチ本体を回し，本体を上下に移動させて，点灯時期を調整する。
- リヤブレーキが効きはじめる直前に点灯するように調整する。

注 リード線のねじれに注意する。



点検調整

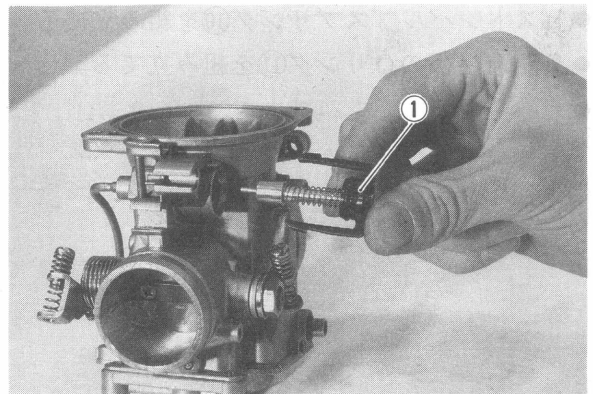
CARBURETOR



分解点検

CARBURETOR

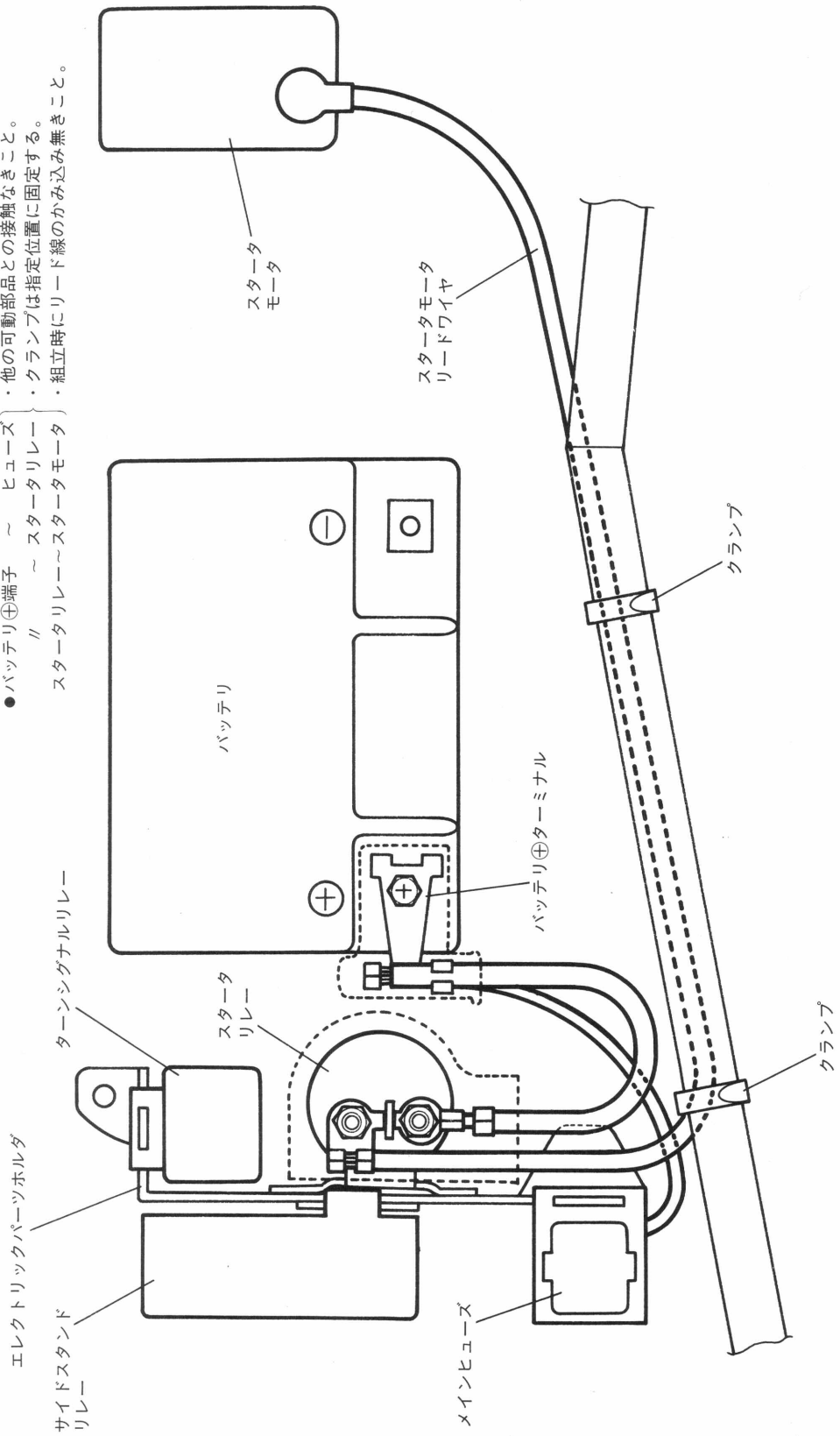
● スタータプランジャー①を組み立てる。



電気配線組立図

注記 ● バッテリ ⊕ ターミナル
 スタータ リレー 端子 } 端子と他金属との隙間が 8 mm 以上あること。
 スタータ モータ 端子 }

● バッテリ ⊕ 端子 ~ ヒューズ } ・他の可動部品との接触なきこと。
 // ~ スタータリレー } ・クランプは指定位置に固定する。
 スタータリレー ~ スタータモータ } ・組立時にリード線のかみ込み無きこと。

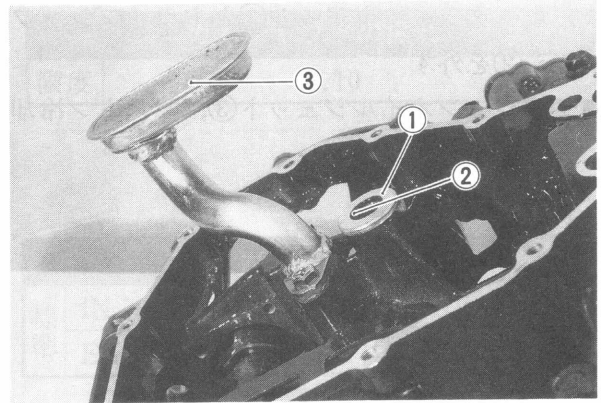


分解点検

オイルストレーナ，クランクケース，クランクシャフト

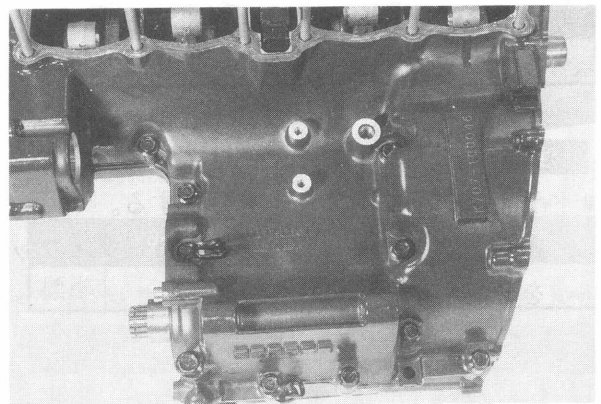
12. オイルストレーナ関係

- オイルパンを外す。
- シム①とOリング②を外す。
- オイルストレーナ③を外す。

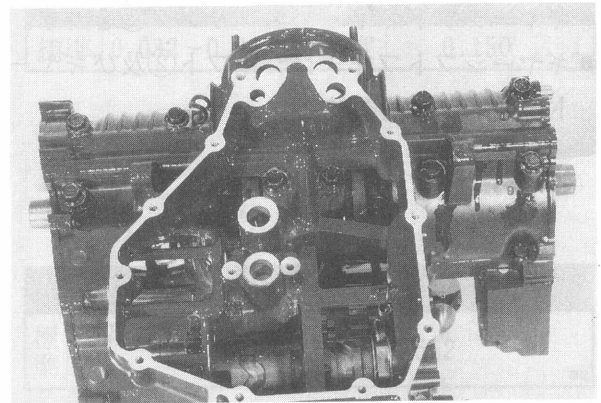


13. クランクケース関係

- クランクケースアッパ締付ボルトを外す。
- 注** ボルトは外側から順次対角線に添って緩めてください。

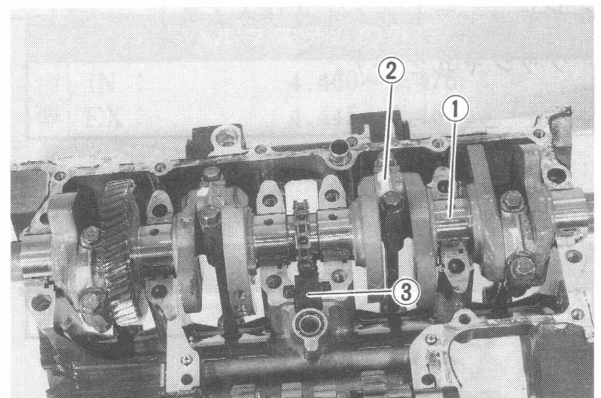


- クランクケースローア締付ボルトを外す。
- 注**
- ・ クランクケース締付ボルトはネジ径の小さいものから先に緩め，同じ大きさのものは順次対角線に添って緩めてください。
 - ・ クランク部分は刻印番号の大きい順に外す。
- プラスチックハンマーで軽くたたき，ローケースとアッパケースを分解する。



14. クランクシャフトを外す。

- クランクシャフト①を取り外す。
- コンロッド②を外す。
- カムチェーンテンショナ③を外す。



CAMSHAFT JOURNAL WEAR

Determine whether or not each journal is worn down to the limit by measuring the oil clearance with the camshaft installed in place. Use plastigauge ① to read the clearance at the widest portion, which is specified as follows:

Camshaft-Journal oil clearance (IN & EX)

Service Limit: 0.150 mm (0.0059 in)

09900-22301: Plastigauge

NOTE:

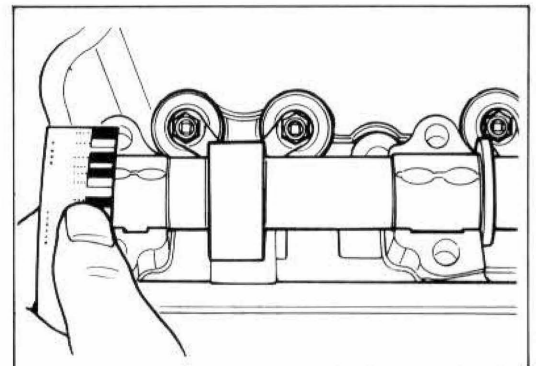
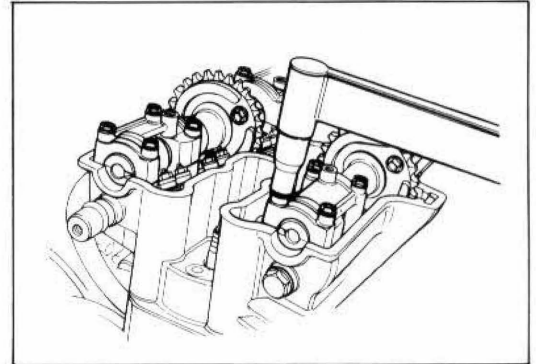
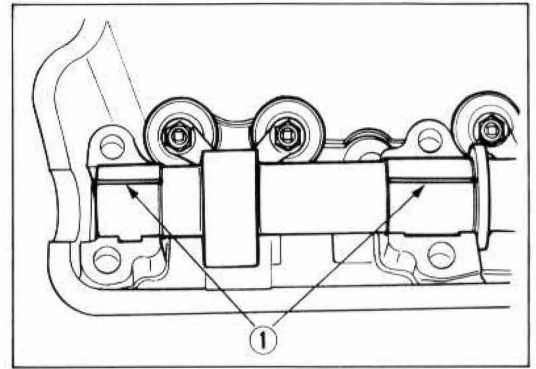
Install each holder to their original positions. (See page 3-60.)

Tighten the camshaft holder bolts evenly and diagonally to the specified torque.

**Tightening torque: 8 – 12 N·m
(0.8 – 1.2 kg·m, 6.0 – 8.5 lb·ft)**

NOTE:

Do not rotate the camshafts with plastigauge in place.

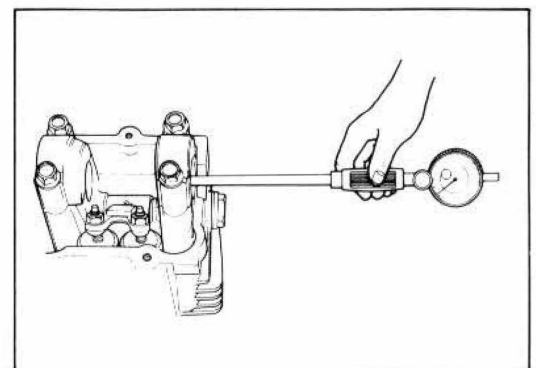


Remove the camshaft holders, and read the width of compressed plastigauge with envelope scale. This measurement should be taken at the widest part.

If the camshaft journal oil clearance measured exceed the limit, measure the inside diameter of camshaft journal holder and outside diameter of the camshaft journal. Replace the camshaft or cylinder head depending upon which one exceeds the specification.

Standard

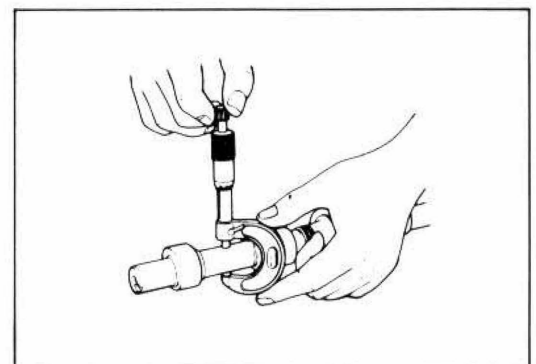
**Journal holder I.D. (IN & EX): 22.012 – 22.025 mm
(0.8666 – 0.8671 in)**



09900-20205: Micrometer (0 – 25 mm)

Standard

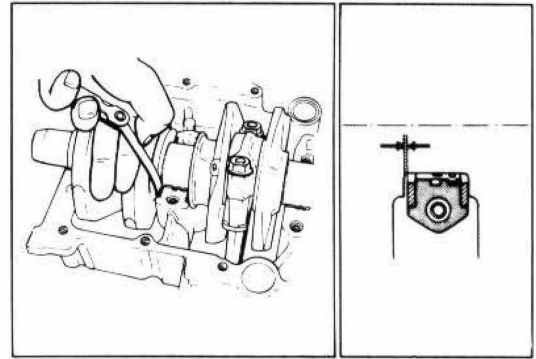
**Camshaft journal O.D. (IN & EX): 21.959 – 21.980 mm
(0.8645 – 0.8654 in)**



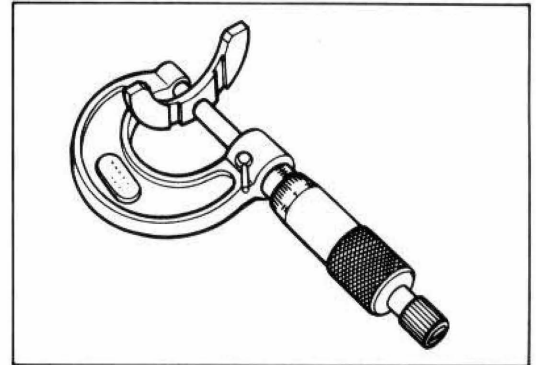
Thrust clearance

Standard: 0.045 – 0.100 mm (0.0018 – 0.0039 in)

If the thrust clearance exceeds the standard range, adjust the thrust clearance by the following procedures:



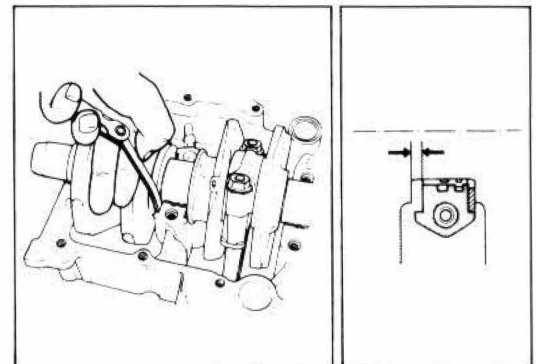
- Remove the right-side thrust bearing and measure its thickness with a micrometer. If the thickness of the right-side thrust bearing is below standard, replace with a new bearing and once again perform the thrust clearance measurement listed above, checking to make sure it is within standard.



Right-side thrust bearing thickness

Standard: 2.425 – 2.450 mm (0.0955 – 0.0965 in)

- If the right-side thrust bearing is within the standard range, reinsert the right-side thrust bearing and remove the left-side thrust bearing.
- As shown in the illustration, use a thickness gauge to measure the clearance before inserting of the left-side thrust bearing, and select a left-side thrust bearing from the selection table.



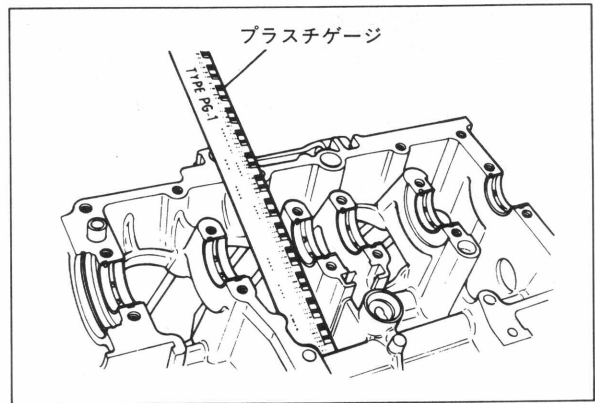
Thrust bearing selection table

Clearance before inserting left-side thrust bearing	Color (Part No.)	Thrust bearing thickness	Thrust clearance
2.420 – 2.445 mm (0.0953 – 0.0963 in)	Red (12228-43411)	2.350 – 2.375 mm (0.0925 – 0.0935 in)	0.045 – 0.095 mm (0.0018 – 0.0037 in)
2.445 – 2.470 mm (0.0963 – 0.0972 in)	Black (12228-43412)	2.375 – 2.400 mm (0.0935 – 0.0945 in)	
2.470 – 2.495 mm (0.0972 – 0.0982 in)	Blue (1.2228-43413)	2.400 – 2.425 mm (0.0945 – 0.0955 in)	
2.495 – 2.520 mm (0.0982 – 0.0992 in)	Green (12228-43414)	2.425 – 2.450 mm (0.0955 – 0.0965 in)	
2.520 – 2.545 mm (0.0992 – 0.1002 in)	Yellow (12228-43415)	2.450 – 2.475 mm (0.0965 – 0.0974 in)	
2.545 – 2.575 mm (0.1002 – 0.1014 in)	White (12228-43416)	2.475 – 2.500 mm (0.0974 – 0.0984 in)	0.045 – 0.100 mm (0.0018 – 0.0039 in)

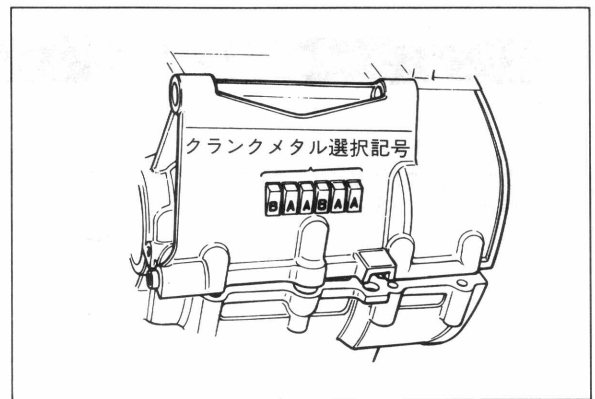
分解部品の点検

クランクシャフトジャーナルのオイルクリアランス

- クランクケースを分割してクランクシャフトジャーナル部へプラスチックゲージを入れてクランクケースを規定トルクで締め付ける。
 - 再びクランクケースを分割し、押しつぶれたプラスチックゲージ幅でオイルクリアランスを測定する。
- 注** プラスチゲージがクランクシャフトジャーナル部に入っているときは、クランクシャフトを絶対に動かさないでください。

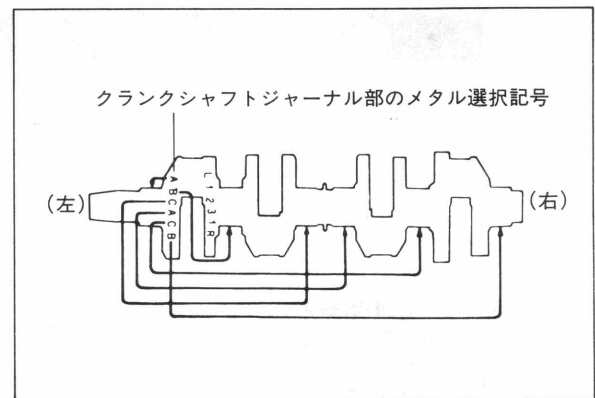


クランクシャフトジャーナルのオイルクリアランス
0.012~0.036 mm



- 測定結果が規定オイルクリアランスを外れていたら、1番左側クランクウェッジとクランクケース後面に記した記号から下記のクランクメタル選択表でベアリングを選択し、交換する。

注 1対のクランクメタルには同色のベアリングを使用してください。



クランクメタル選択表				
ケース側記号	クランク側記号	A	B	C
		A	緑色	黒色
B	黒色	茶色	黄色	

分解点検

CLICK HERE TO **DOWNLOAD** THE COMPLETE MANUAL

- Thank you very much for reading the preview of the manual.
- You can download the complete manual from: www.heydownloads.com by clicking the link below



- Please note: If there is no response to CLICKING the link, please download this PDF first and then click on it.

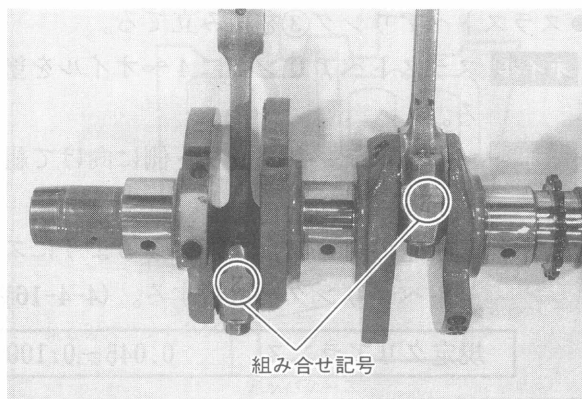
CLICK HERE TO **DOWNLOAD** THE COMPLETE MANUAL

コンロッド，クランクシャフト

- コンロッドとキャップは分解時と同じ組み合せにして組み合せ記号をインレット側に向ける。

オイル ベアリング内面，クランクピン表面に4〜オイルを塗布する。

注 ゴミや異物が入らないように十分注意してください。

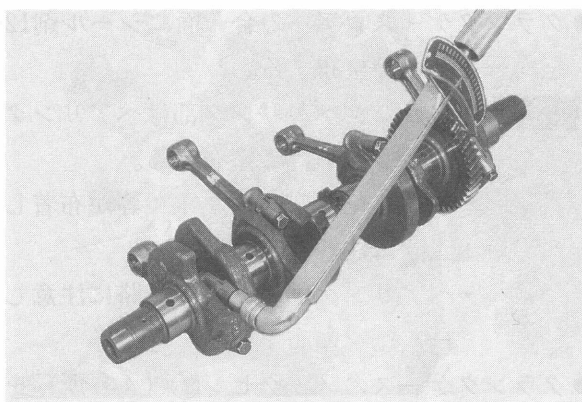


- コンロッドキャップの締め付けは，初め仮締めし次に規定トルクで本締めする。

締付トルク	コンロッド キャップ	仮締め	本締め
		130 kg・cm	330~370 kg・cm

注 コンロッドがスムーズに回るか確認する。

オイル 組み立て後，大端両側面に4〜オイルを塗布する。



5. クランクシャフト

- ベアリング（メタル）は爪を先に爪溝に入れハウジング内面に密着させる。

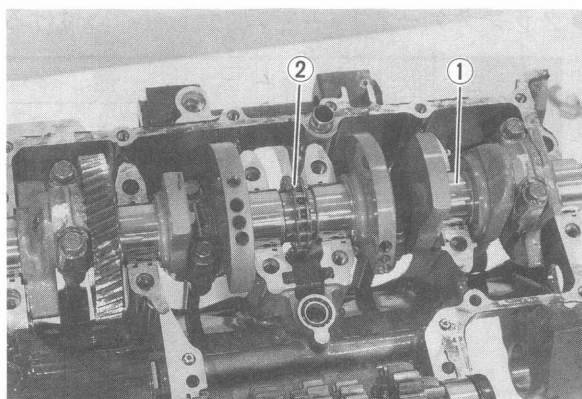
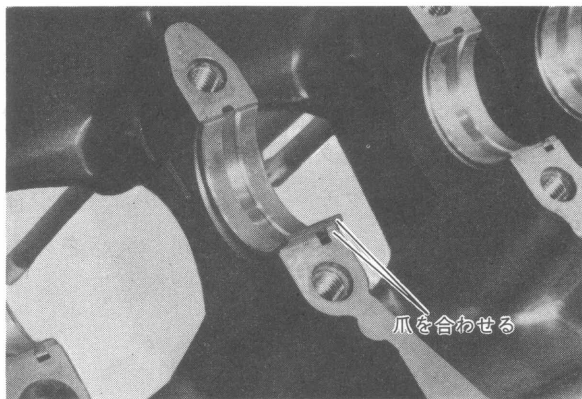
注

- ・上下同色のベアリングを使用する。
- ・ベアリングを交換する時は，クランクケース及びクランクシャフトの組み合せ記号によりベアリングを選択してください。（4-4-15参照）
- ・ベアリング穴有——ローケース側
- ・ベアリング穴無——アッパケース側

オイル ベアリング内面，クランクシャフトジャーナル部に4〜オイルを塗布する。

- クランクシャフト①にカムチェーン②を通しアッパクランクケースに組み立てる。

注 ゴミや異物が入らないように十分注意してください。

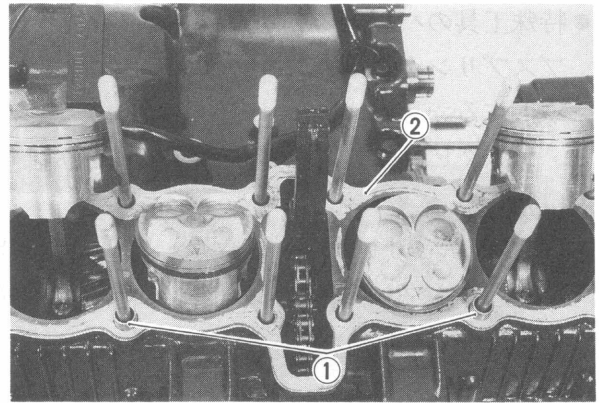


シリンダ関係, シリンダヘッド関係

16. シリンダ関係

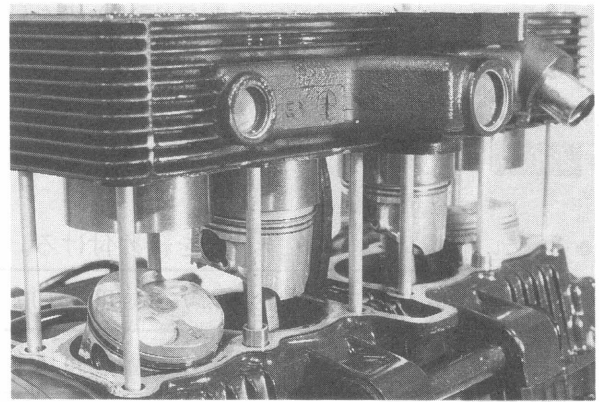
- シリンダスタッドボルト部2箇所(1)を取り付ける。
- シリンダガスケット(2)を取り付ける。(UPマークが上面)

オイル シリンダ内面及びピストンリングにオイルを塗布する。



- シリンダを組み立てる。

注 ピストンリングを折らないように注意する。



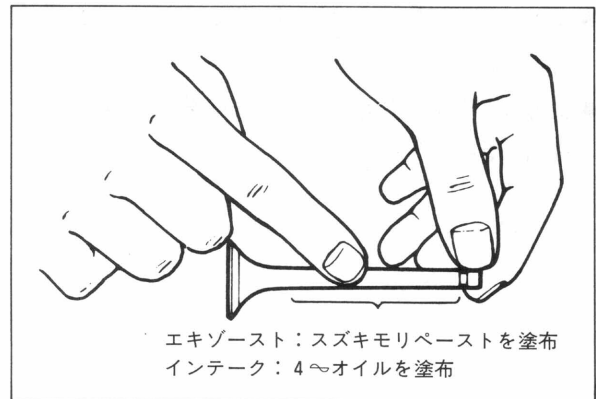
17. シリンダヘッド関係

- インレット/エキゾーストバルブをバルブガイドに挿入する。

グリス エキゾーストバルブステム部にスズキモリペーस्टを塗布する。

オイル インテークバルブステム部に4〜オイルを塗布する。

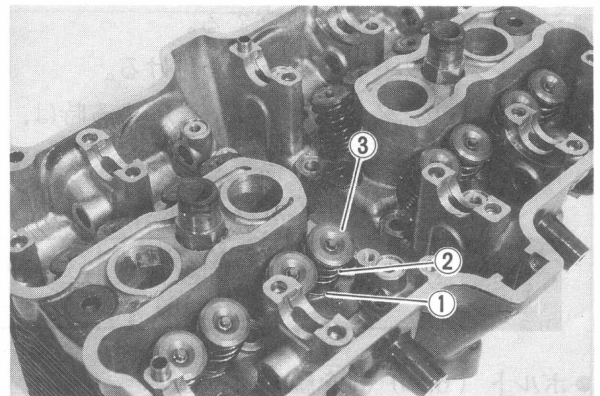
注 バルブは分解時と同位置に組み立てる。



- バルブスプリングシート(1), バルブスプリング(2), リテーナ(3)の順に取り付ける。

注

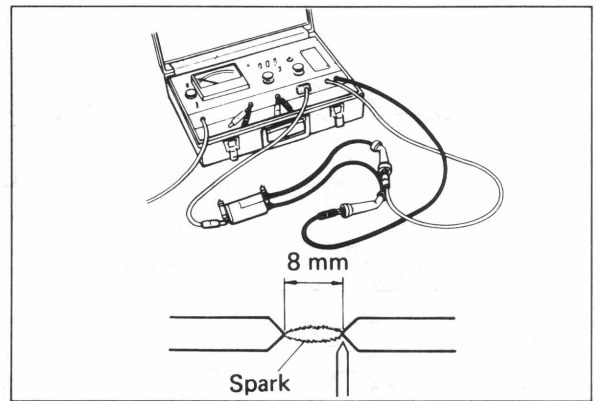
- ・エキゾースト側のスプリングシート下側にワッシャを入れる。
- ・バルブスプリングはピッチの小さい方を下にして取り付ける。



シグナルゼネレータ，レギュレートレクチファイア

- エレクトロテスタと特殊工具（テストリード）を用いて飛火性能の点検を行なう。

特工 エレクトロテスタ：09900-28107
PEI テストリード：09900-28617

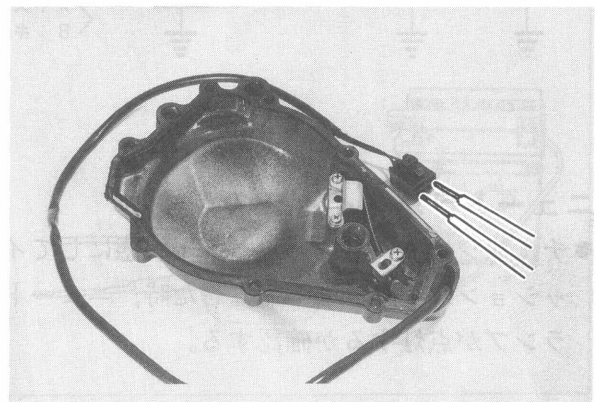


シグナルゼネレータの点検

- ポケットテスタを用いて抵抗値を測定する。

注 テスタにより，多少数値が異なるので注意してください。

シグナルゼネレータの抵抗値		
端子	抵抗値	測定レンジ
茶↔黒青	100Ω ±20%	×10Ω

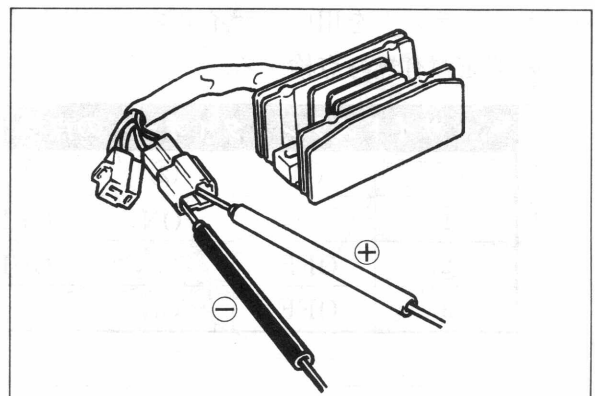
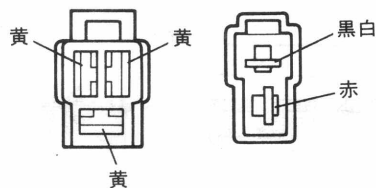


レギュレートレクチファイアの点検

- ポケットテスタを用いて，各リード線端子間の導通（抵抗）を測定する。

注 テスタにより，多少数値が異なるので注意してください。

レギュレートレクチファイアの導通（抵抗）					
テスト⊕ テスト⊖	黒白	黄	黄	黄	赤
黒白		6Ω	6Ω	6Ω	30Ω
黄	OFF		OFF	OFF	6Ω
黄	OFF	OFF		OFF	6Ω
黄	OFF	OFF	OFF		6Ω
赤	OFF	OFF	OFF	OFF	



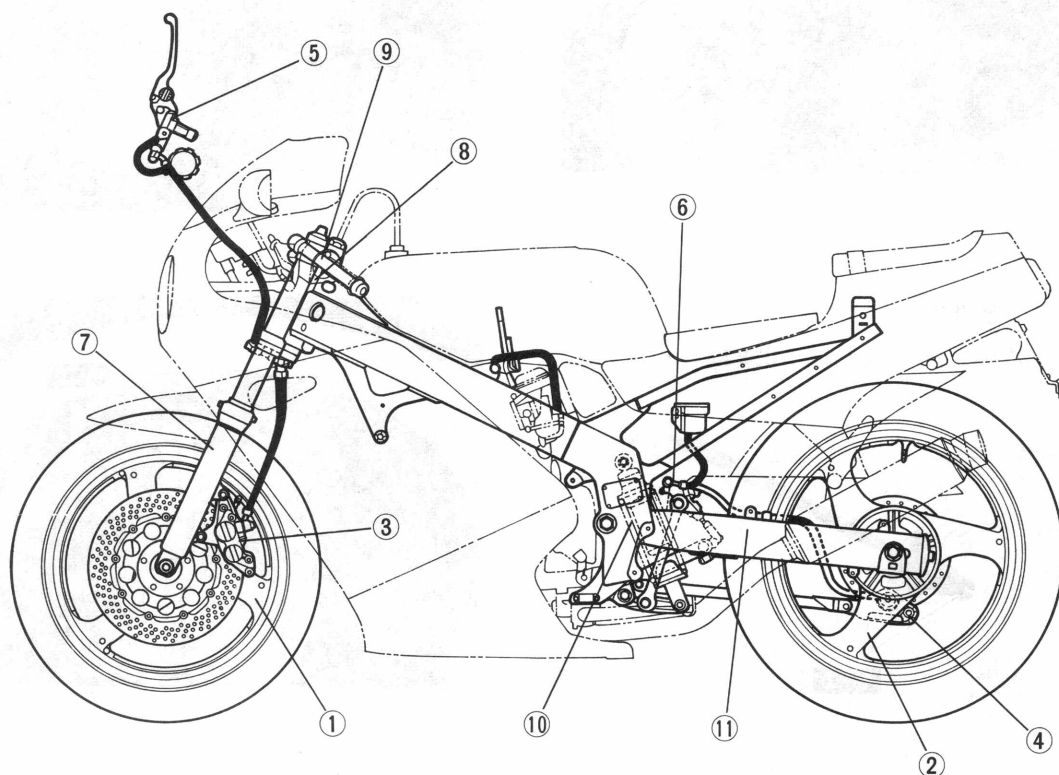
分解点検

ボデーの分解・組立

ボデーの分解・組立

●ホイール	4-6-2
●ブレーキ	4-6-10
●フロントフォーク	4-6-22
●ステアリングシステム	4-6-27
●ハンドル	4-6-30
●リヤショックアブソーバ	4-6-33
●スイングアーム	4-6-33

- 注**
- 車体を上げて行なわなければ出来ない作業は、ジャッキ等を用いて行なってください。
 - 車体を上げて行なう作業は安全を確かめてから行なってください。



- ①フロントホイール
- ②リヤホイール
- ③フロントブレーキキャリパ
- ④リヤブレーキキャリパ
- ⑤フロントブレーキマスタシリンダ
- ⑥リヤブレーキマスタシリンダ
- ⑦フロントフォーク
- ⑧ステアリングシステム
- ⑨ハンドル
- ⑩リヤショックアブソーバ
- ⑪スイングアーム

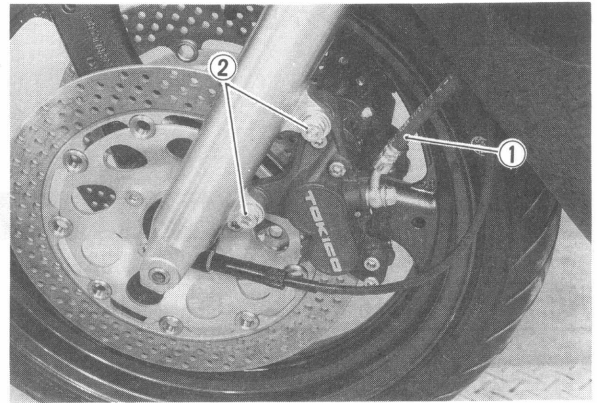
フロントキャリパ

フロントブレーキキャリパの分解

- ブレーキホース①を外す。

注 ブレーキオイルが流れ出ますので、ホイール、タイヤ等に付着しないよう十分注意し、オイル受の中に流し出す。

- キャリパマウントボルト②を外す。

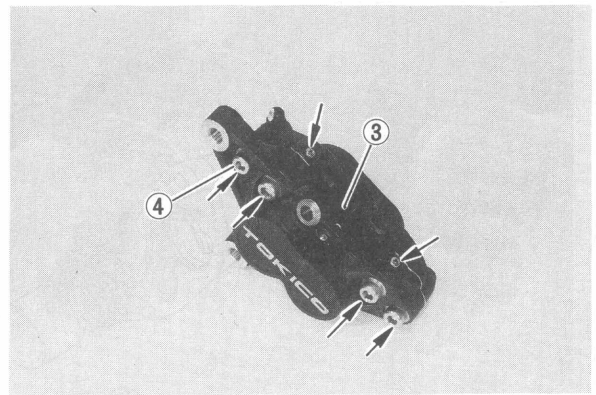


- パッドカバー③を外す。

- パッドを外す。

- キャリパボルト④を外す。

注 パッドにオイルが付着しないよう注意する。

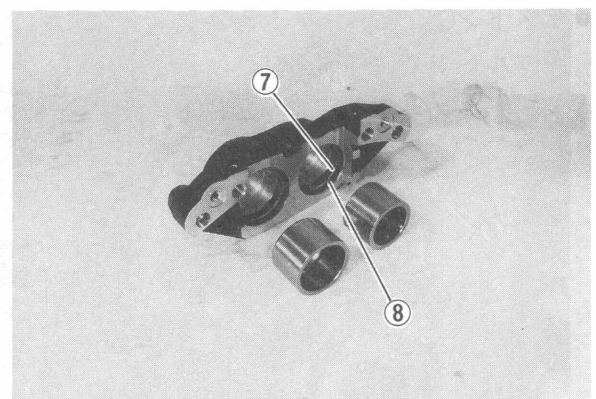
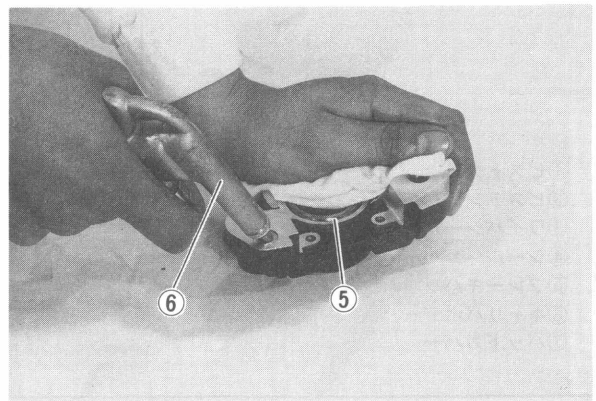


- ピストン⑤を外す。

・エアガン⑥を用い、片側通路をふさいでエア圧力を掛けて押し出す。

注 ピストンは強い力で飛び出しますのでピストンをしっかり押さえてエア圧力を掛ける。

- ピストンシール⑦、ワイパシール⑧を外す。



ブレーキエア抜き

ブレーキのエア抜き

- マスタシリンダのリザーバタンク①にブレーキフルードを入れキャップを取り付ける。

オイル スズキブレーキフルード

注 1 ブレーキフルードは必ずスズキ純正ブレーキフルードを使用してください。

注 2 ブレーキフルードを補給するときは、外に漏れないよう十分注意してください。

注 3 ブレーキフルードは塗装面、樹脂製品に付着すると塗装面を損傷させたり、亀裂ができたりするので十分注意してください。

- キャリパ側のブリーダ②へ細い透明のビニールホース③を取り付け、先端を受皿か空カンへ導いておく。

- ブレーキレバー④をあおるように操作し、ときどきブレーキレバーを強く握りながらブリーダを緩める作業を繰り返して、取り付けしたビニールホースから気泡が出なくなるまで行う。

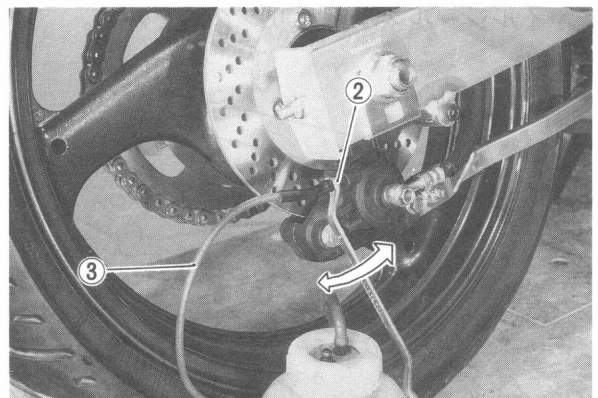
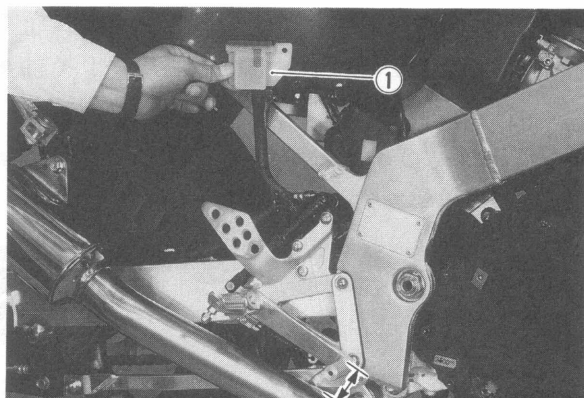
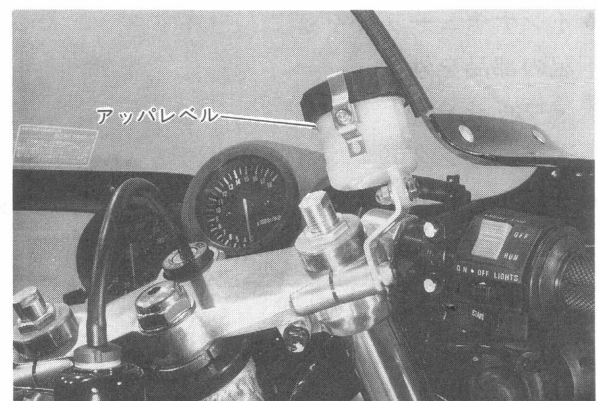
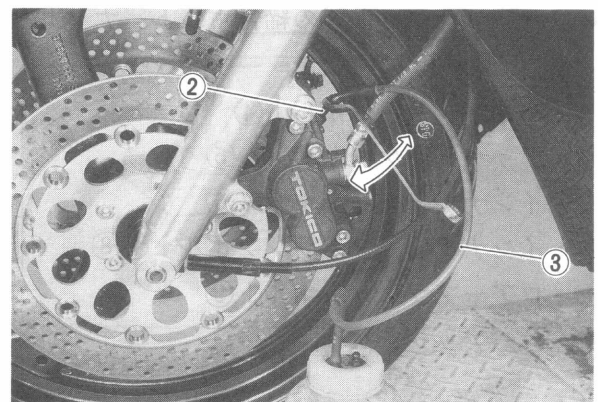
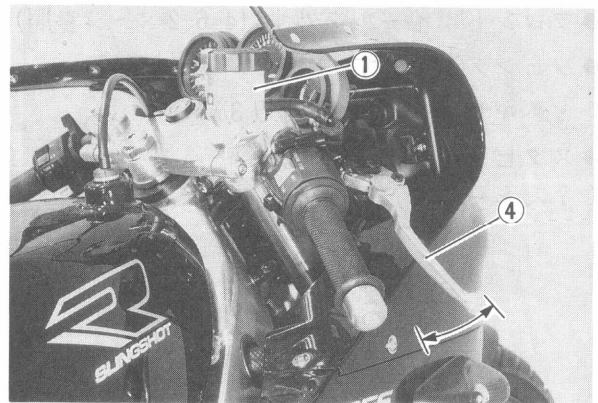
注 リザーバタンク内のブレーキオイルが減少したら補給してください。

- エア抜き終了後ブレーキフルードをリザーバタンクのアップレベルまで入れる。

注 1 1度使用したブレーキフルードは再使用しないでください。

注 2 各部にブレーキフルードが附着していないか確認してください。

- リヤブレーキ側も上記と同様に行なう。



ハンドルバー

ハンドルバー組み立てのポイント

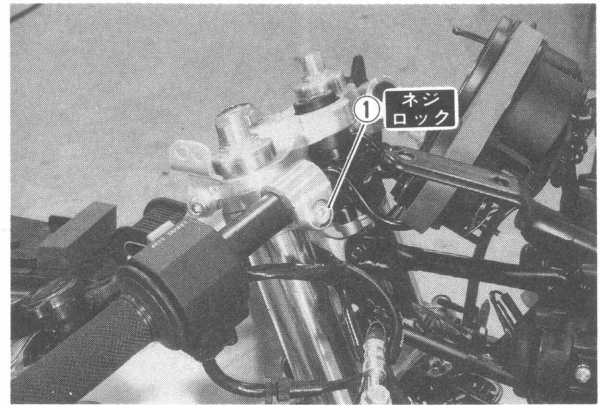
ライトハンドルバー

- ハンドルバーランプボルト①を組み立てる。

- ・ボルトにネジロックを塗布する。

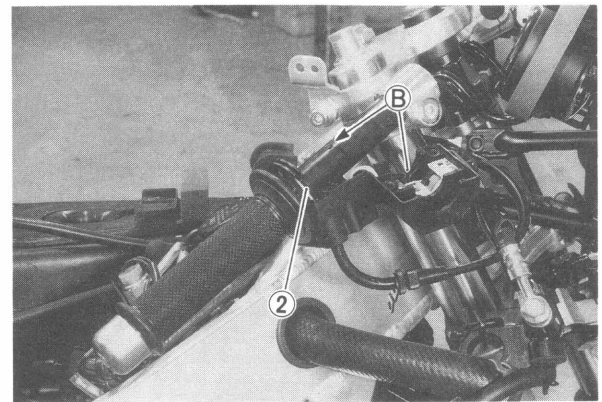
ネジロック スリーボンド1303

締付トルク	ハンドルバーランプボルト	350～450 kg・cm
-------	--------------	---------------



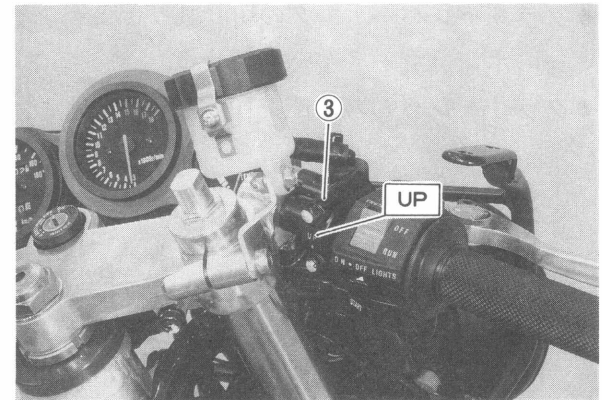
- スロットケーブル②を組み立てる。
 - ・ケーブルエンドにグリスを塗布する。
- ライトスイッチボックス位置決めボスⒷをハンドルバーの穴に合わせる。

スロットルグリップの遊び：2～4 mm

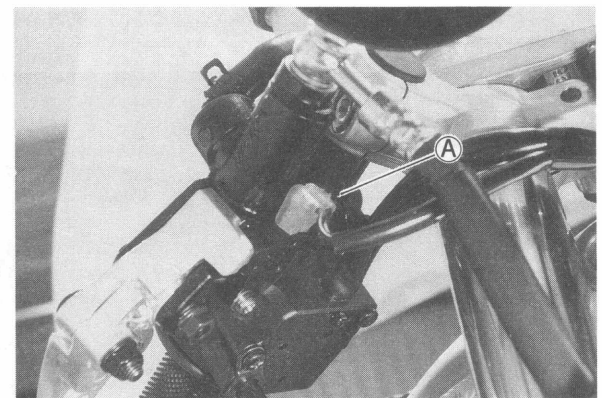



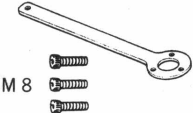
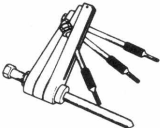
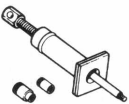
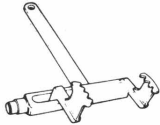
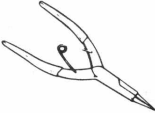

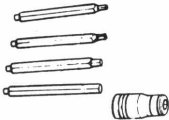
- マスタシリンダホルダ③の **UP** マークを上側にして組み立てる。

締付トルク	マスタシリンダホルダボルト	50～80 kg・cm
-------	---------------	-------------



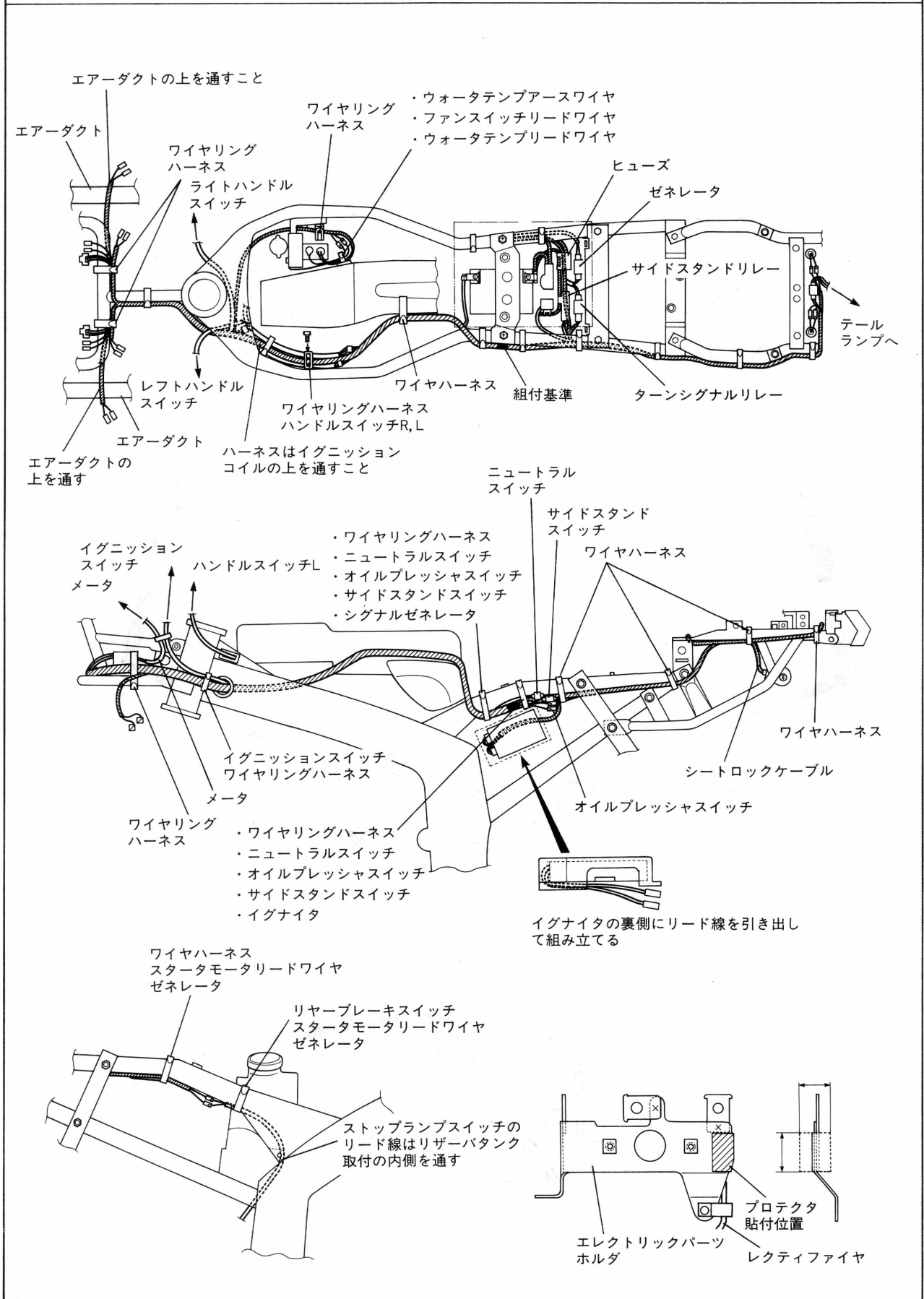
- マスタシリンダホルダの合わせ面をポンチマークⒶに合わせる。



品名	品番	工具	用途
ロータリムーバ	09930-34912		スタータクラッチの取り外し (35φ用)
ロータホルダ	09930-32420		ジェネレータロータの回り止め用
クランクケース & シャフトリムーバ	09920-13120		ジェネレータロータの取り外し
ピストンピンプーラ	09910-34510		ピストンピンの抜き取り
クラッチスリーブハブホルダ	09920-53710		クラッチスリーブハブ回り止め
スナップリングプライヤ	09900-06107		サークリップ取り外し用
バルブラップセット	09916-10910		バルブシートのあたりの調整用
ヘキサゴンビット レンチセット	09900-00410		ヘキサゴンボルトに使用する

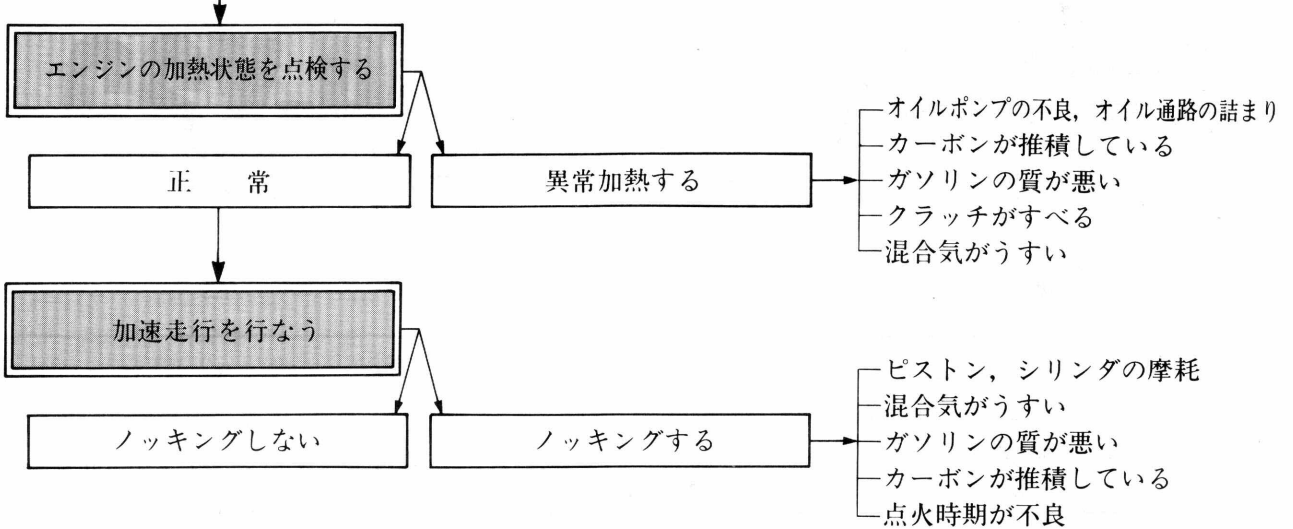
ワイヤハーネス

ワイヤハーネス組立図

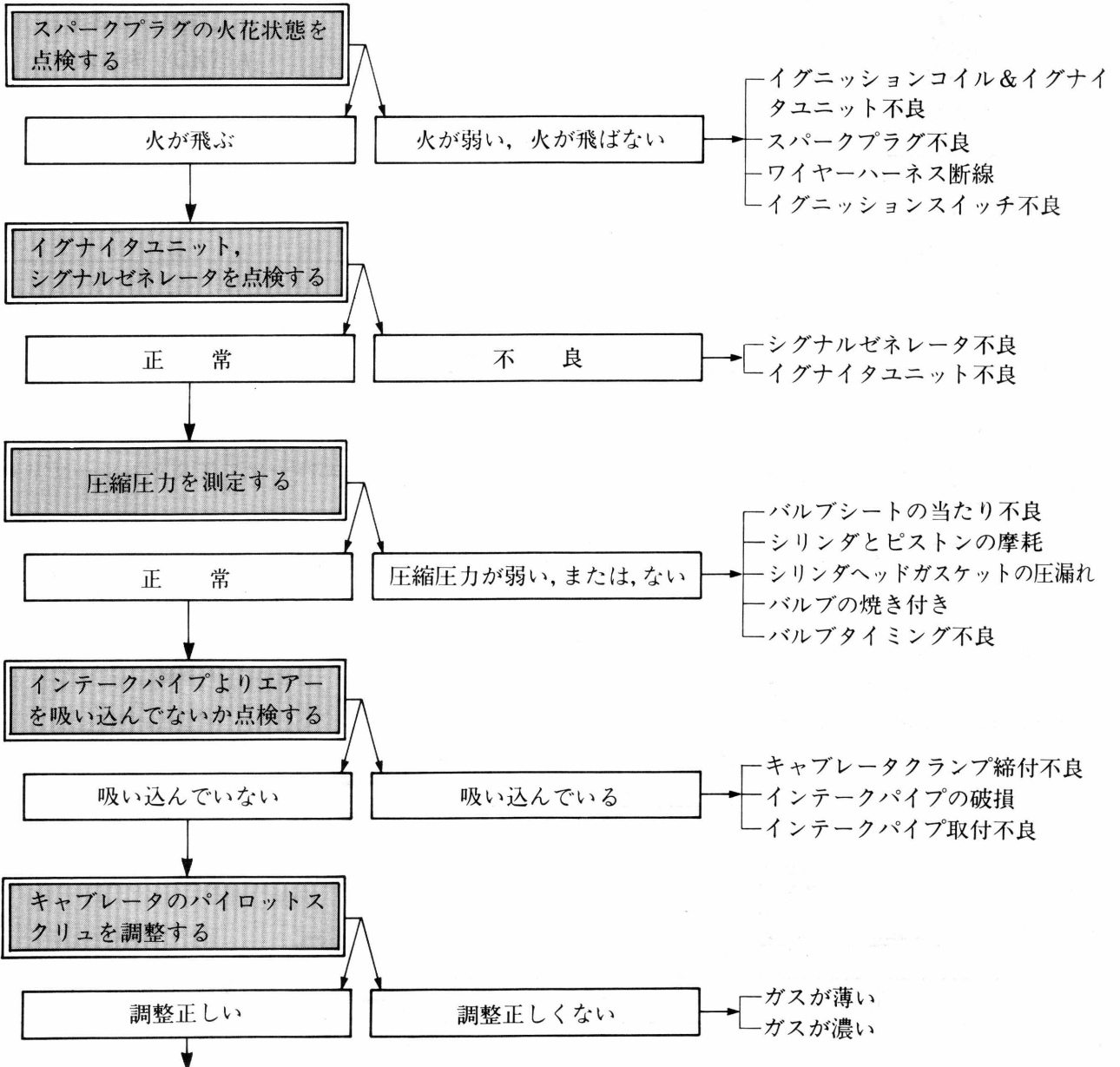


整備資料

点検項目	確認状況	考えられる原因
------	------	---------

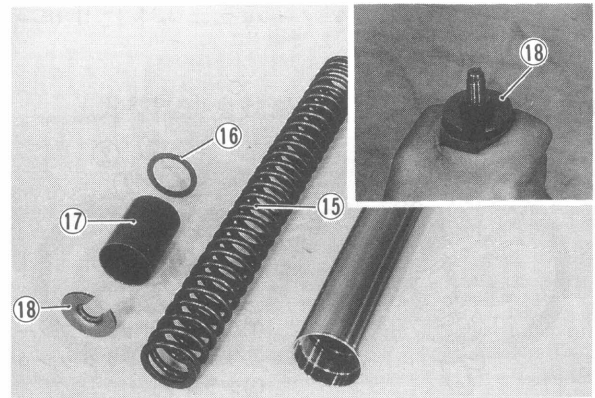


●回転不良(低速)



- スプリング⑮, ワッシャ⑯, スペーサ⑰, スプリングリテーナ⑱を組み立てる。

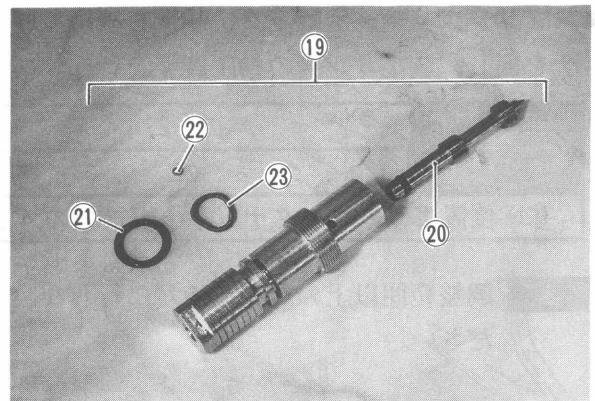
注 スプリングは外径の小さい方を下側にして組み立ててください。



- スプリングアジャスタ⑲を組み立てる。

- ・ アジャスタ⑳を組み立てる。
- ・ Oリング㉑を組み立てる。
- ・ ボール㉒及びスプリング㉓を組み立てる。

注 ・ スプリング合せ部をボールと反対側になるように組み立てる。
・ スプリングを変形させないように注意してください。

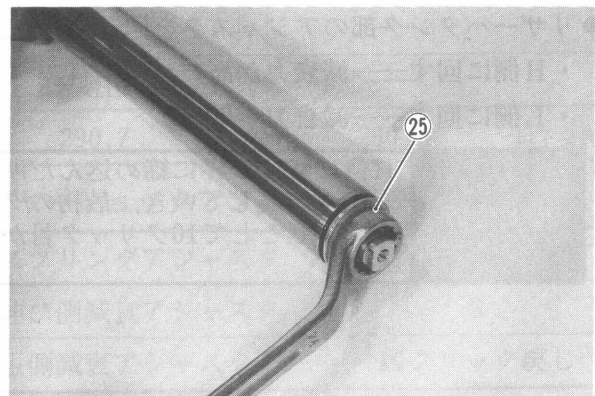
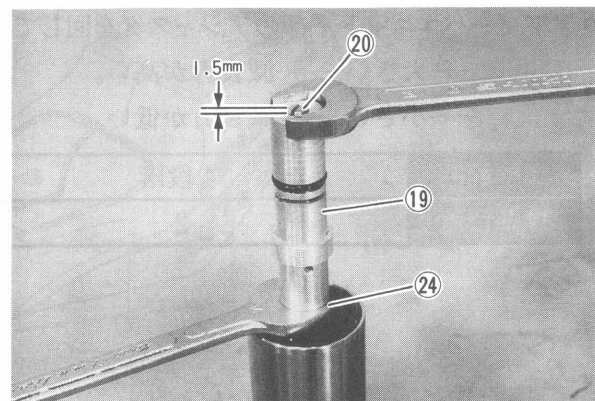


- ロックナット㉔を軽く一杯まで締め込んでおく。
- アジャスタ⑳上部を1.5mm出します。
- スプリングアジャスタ⑲を軽く一杯まで締め込む。
- スプリングアジャスタ⑲が絶対に回らないように固定し、ロックナット㉔を締める。

締付トルク	ロックナット	175~225 kg・cm
-------	--------	---------------

- インナチューブキャップ㉕を取り付ける。

締付トルク	インナチューブキャップ	150~300 kg・cm
-------	-------------	---------------



点検調整：総説，点検整備項目

点検整備項目		点検整備時期			判定基準	備考
		運行前	1か月目	自家用 6か月毎 12か月毎		
動力	トランスミッション		○	●	●	油量のぞき窓式 F~L間にあること
	トランスミッションオイルの交換	-	-	-	-	-
	操作機構のがた				●	
伝達装置	ドライブシャフト及び					
	連結部の緩み	-	-	-	-	-
	スプライン部のがた	-	-	-	-	-
	自在継手部のがた	-	-	-	-	-
チェーン及びスプロケット	チェーンの緩み		○	●	●	サイドスタンド使用時 前後スプロケットの中央で最大振幅 15~25mm
	スプロケットの取付状態及び摩耗				●	
	ドライブVベルトの点検	-	-	-	-	-
	ファイナルベルギヤオイル交換	-	-	-	-	-
電気装置	点火プラグの状態			●	●	プラグギャップ 0.6~0.7mm
	点火時期			●	●	「無調整式」
	断続器の状態			●	●	「無調整式」
	進角装置（遅角機構を含む）の機能				●	「無調整式」
バッテリー	液量			●	●	「密閉式」
	液の比重				●	「密閉式」
	ターミナル部の接続状態				●	
電配線	接続部の緩み及び損傷				●	
本体	かかり具合及び異音		○	●	●	
	低速及び加速の状態		○	●	●	アイドリング回転数 1300r.p.m
	排気の状態			●	●	
	エアークリーナ・エレメントの状態			●	●	
	弁すき間		○		●	冷間 吸気 0.13~0.18mm 排気 0.20~0.25mm
潤滑装置	油漏れ		○	●	●	
	油の汚れ及び量			●	●	油量のぞき窓式 F~L間にあること

点検整備項目		点検整備時期			判定基準	備考
		運行前	1か月目	自家用 6か月毎 12か月毎		
潤滑装置	オイルの量		●			
	オイル・クリーナの詰まり				●	
	オイル・クリーナ・エレメントの交換		○			12000km毎
	エンジンオイルの交換		○			6000km毎
燃料装置	燃料漏れ			●	●	
	フューエルホースの交換					☆ 4年毎
	キャブレタのリンク機構の状態				●	
	スロットル・バルブ及びチョーク・バルブの状態				●	
	燃料フィルタの詰まり				●	
	燃料の量		●			
冷却装置	水量		●	●	●	リザーバタンク F~L間にあること
	水漏れ		●		●	
	ラジエータ・キャップの機能				●	開弁圧 0.95~1.25kg/cm ²
	冷却水の交換					2年毎
	冷却水ホースの交換					☆2年毎
灯及び方向指示器	作用			●	●	
	点滅具合、汚れ及び損傷		●			
警音器	作用				●	
後视镜	写影の状態		●			
反射鏡	写影の状態		●			
反動器及び自動	又は車両番号標 汚れ及び損傷		●			
計器	作用				●	
エキゾースト・マフラス	取付部の緩み及び損傷				●	
	マフラの機能				●	
車体	緩み及び損傷		○		●	
前日の運行にお	当該箇所に異状がない事を確認		●			
その他	シャシ各部の給油脂状態			●	●	

CLICK HERE TO **DOWNLOAD** THE COMPLETE MANUAL

- Thank you very much for reading the preview of the manual.
- You can download the complete manual from: www.heydownloads.com by clicking the link below



- Please note: If there is no response to CLICKING the link, please download this PDF first and then click on it.

CLICK HERE TO **DOWNLOAD** THE COMPLETE MANUAL